

ストリートメディア、新しいかたちで「放送と通信の融合」トライアルを開始

—— 放送から街頭メディアへ、そして携帯電話がシームレスに ——

2008年9月25日

"ストリートメディア株式会社(本社・東京都港区、代表取締役社長・大森洋三/以下ストリートメディア社と表記)は、今秋から、TOKYO MX(東京メトロポリタンテレビジョン株式会社)の放送を利用し、番組コンテンツをストリートメディア社の開発した次世代型インフォメーションシステムであるインタラクティブデジタルサイネージ「Touch!ビジョン」へ配信するとともに、様々なマーケティングトライアルをおこないます。

同社は、街頭や店舗などにおいて「人を動かし、人がつながる生きたメディア」を創出する事を目的に、インテックスホールディングス取締役であった大森洋三を中心に、携帯、メディア、IT技術の専門家が集まり、本年4月に設立されたベンチャー企業です。同社が開発した、放送と通信を最先端の技術で融合させた先進的なメディアソリューションとインタラクティブデジタルサイネージ「Touch!ビジョン」を提供します。

新開発の「Touch!ビジョン」は、近年広告扱高の中でシェアを伸ばすデジタルサイネージ市場にあって、

- ・デジタルテレビ並みの映像表現が可能
- ・情報を任意に更新可能
- ・携帯電話に情報を吸い上げる事で、情報を持ち歩くことができる
- ・従来デジタルサイネージの課題であった設置場所の限定から解放

等の理由から、「消費の現場」に近いところで「買いたい欲求」を喚起できる画期的な仕組みです。まさに「商品からラスト300メートル」を生かすメディアであり、「1万人に見ていただく事より、100人に行動していただく」事をねらったメディアです。

今回のトライアルでは、千代田区神田地域の商店街や地区内の店舗や街頭等に「Touch!ビジョン」を設置します。各「Touch!ビジョン」に向け、地域情報番組をTOKYO MXのデジタル第2チャンネル(S2/092ch)で配信。同時に、データ放送に仕込まれた放送言語(BML)を、ストリートメディア社が開発中の「Echo」(エコー)ブラウザにより通信言語に変換することで、それぞれの「Touch!ビジョン」に流れる情報を放送波で制御する事が可能になりました。また「Echo」によりFeliCaデバイスを介して特別なアプリケーションを用いることなく3キャリアの携帯電話に映像にまつわる情報を簡単に取り込むことができます。これにより、ユーザーは面倒な作業無く、コンテンツをストレスなく携帯電話に取得する事ができます。新しい双方向コミュニケーションが可能となるわけです。

たとえば街頭で、「Touch!ビジョン」に流れる店舗情報の映像放映時に、携帯電話で「Touch!ビジョン」にタッチすれば、その店舗への「道案内情報」や「セール情報」等を簡単に携帯電話に取得することができ、より多くの人の来店や、売り上げの向上に結びつくことが期待できます。また、「Touch!ビジョン」に携帯電話をタッチする人々の動き(街での動線)や志向をリアルタイムにフィードバックできるため、強力なマーケティングサービスとしても活用できます。

また、近年多発している災害時等に屋外は「情報過疎」だと言われますが、ストリートメディア社は「Touch!ビジョン」に今後、緊急(災害)情報を流す事も検討しており、この情報ギャップを埋める「媒体」としても期待されます。このシステムは、同社が「デジタルサイネージシステム及び運用方法並びにデジタルサイネージ向け放送システム及びデジタルサイネージ装置」として特許出願中です。同社は、この事業を中心に3年後に40億円の売り上げを目標としています。

ストリートメディア社は本事業を通じて、地域情報の活性化によるビジネス創出・災害時の緊急情報の屋外における発信を目指します。放送と通信の融合。新時代を見据えた今回のトライアルは注目を集めるものと思われます。

なお、今回の神田地域のトライアルは、神田駅周辺の各商店街が協賛、経済産業省の推進する商店街活性化事業と連動しております。

■お問い合わせ先

ストリートメディア株式会社 担当：廣瀬 純一(ひろせじゅんいち)

E-mail : info@streetmedia.co.jp

URL : <http://streetmedia.co.jp>